



市之倉だより

多治見市立 市之倉小学校 令和8年7月号
〒507-0814 多治見市市之倉町 10-381
TEL 0572-22-3702 ホームページ <http://school.city.tajimi.lg.jp/ichinokura/>

蒸し暑い時期になりましたが皆様いかがお過ごしでしょうか。そんな中で、頑張る児童の姿や学校の様子をできる限り毎日HPにアップしています。お時間があるときにご覧ください。

今回は、6月20日（土）に開催された多治見市青少年主張大会に本校の代表として参加した児童の作文を掲載させていただきます。紙面の都合上、一部割愛させていただきましたことをご了承ください。

「ぼくとプラスチック問題」

6年 児童

ぼくは魚が好きです。ぼくの家では、小さいころから、ミッキーマウスプラティやコリドラスという名の熱帯魚を飼っています。泳ぐすがたはとてもきれいで、見ているといやされます。

また、ぼくは魚を食べることも好きです。「魚は栄養があるから食べてね」と、いつも父は言います。そのため、ぼくの家ではよく食卓に魚が出てきました。ぼくの生活には、いつも魚が身近にありました。

しかし、そんな魚の命がおびやかされていることを、五年生の宿泊研修で知りました。様々な原因がありますが、その中の一つにプラスチックのごみも原因だと知りました。自然を守るため、研修先ではプラスチックを減らす「バガスプロジェクト」という取り組みを行っていました。「バガス」とはサトウキビから砂糖を取った後に残る繊維のことです。ぼくたちは、バガスで作られた食器を使い、使い終わった後はそれを土に埋めました。埋めた食器は土にかえり、それを肥料として使うことができました。ぼくはその肥料を使って、ツツジを植える経験をさせてもらいました。自然でできたものは自然にかえり、他の植物の栄養になります。育った植物は二酸化炭素を減らして環境をよくします。「いいことが続くんだな」と、ツツジを植えながら思いました。

こうした取り組みの一方で、ぼくたちの暮らし方によって魚が減ってしまっているという事実もあります。みなさんも「海洋プラスチックごみ問題」について、一度は聞いたことがあるのではないのでしょうか。ポイ捨てなどにより捨てられたプラスチックごみが海へ流出し、海の環境や生態系に悪影響を及ぼしている問題です。2050年には、海中のごみの量が、魚の重量を超えるとまで言われています。

調べるうちに、プラスチックごみによる海の生き物への被害が想像以上に大きいということが分かり、「この問題を何とかしたい」と思うようになりました。大好きな魚と共に生きていくために、ぼくにできることは何だろう…。

ポイ捨てをしないことはもちろんのこと、プラスチックそのものを減らす必要があります。一番簡単なのは、買い物をするときにマイバッグを持って行くことです。また、出かけるときには、自動販売機などでペットボトルを買うのではなく、水筒を持って行くのも良いと思います。さらに、プラスチックごみをリサイクルに出すことも大切です。ぼくたちが着ている服にも、プラスチックが多く使われています。着られなくなった服を寄付したり、兄弟にゆずったりすることも、ごみを減らすことにつながります。これまでだったら、「新しいのがいいな」と思っていたのですが、今はそうは思いません。プラスチック問題を知ってからは、海の生き物を守ることに繋がっていると意識するようになりました。

そして恐ろしいことに、海に流れたプラスチックは細かくくだけ、マイクロプラスチックとなり、魚が食べてしまいます。その魚を人間が食べることで、私たちの体にも影響を与えています。つまり、海を汚すことは、自分たちの命にも関わっているのです。



プラスチックごみを減らすことは、人間を含むすべての生き物の命に関わっています。すぐに解決することが難しい問題ではありますが、一人一人がごみを減らす意識をもち、それを行動にうつしていくことが大切だと思います。その小さな行動が、ぼくたちの未来を守ることに繋がっていくのです。

ぼくは、これからもこの行動を続けていきます。みなさんも、ぼくと一緒に、できることから始めてみませんか。